



多様性尊重 幸せを追求

オランダに住んで1年4カ月がたとうとしています。赴任前は、

オランダと聞くとチューリップや風車、チーズを思い浮かべることでできませんでした。しかし、オランダを見て、聞いて、感じていく中で、さまざまなオランダが見えるようになってきました。

その一つに「多様性」があります。オランダは世界で初めて同性婚が認められた国です。LGBTQの人たちの平等をお祝いするパレードが1週間行われたり、小中高校生などの若者に対して啓発する日があったりと、性の多様性へ

大矢 晃三さん

長岡市出身

の寛容さを感じます。

それだけでなく、世界中から移民が集まり、さまざまな言語や文化、宗教、食に触れることができます。その影響からか、オランダ人のほとんどがオランダ語だけで



なく英語も話すことができます。多くのレストランやスーパーマーケットでは、ビーガン用のメニューや食材も必ずと言っていいほどあります。

さらに、家々の庭や学校、公園、テーマパークなどに、一見すると鳥の巣箱と見間違えう箱があります。よく見ると、箱にはヨシや枝などがぎっしりと詰まっています。これはインセクトハウスと呼ばれる虫たちの家なのです。これを設置することで、生物の多様性や環境の保護に国を挙げて力を入れているのです。

このような多様性を受け入れている理由は、オランダ特有の「ヘゼリフハイト」という言葉に起因していると思います。

ヘゼリフハイトと言う言葉は、和やかで心地よくて、あたたかい雰囲気を指す言葉です。よく晴れたアムステルダム市内の公園で思い思いに時間を過ごすオランダの人々

た日の公園やカフェのテラスでゆっくりと過ごした帰りに、「今日はどうしてもヘゼリフだったな」という具合に使い、オランダ人にとつての至福の時間だったことを表現する最高の言葉だそうです。

オランダ人がヘゼリフハイトを大切にするように、ちょっとしたことに幸せを感じられる気持ちのあり方が、多様性を受け入れる秘訣なのだと思います。そんな考え方が世界中に広がることを願わずにいられません。

(大矢さんは1986年生まれ。長岡市出身。2024年からアムステルダム日本人学校に勤務しています)

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウエブサイト新潟日報デジタルプラスにも掲載。執筆希望も受け付けています。

